

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム(1階)		
所在地	岐阜県可児下恵土3005		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&ligyosvoCd=2173100351-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の高齢化に伴い 体調不良を訴えられることが多くなってきている中 毎日の体調管理を訪問看護師と共に 行っている。訪問看護師に相談し 時には 来て頂く中で 利用者・職員の安心へと繋がっている。また たとえ入院となっても 病院内に設置されている支援相談室の相談員そして訪問看護師・主治医との連携により 早期の入院・早期の退院へと結びつけている。家族や利用者の希望により 看取りへと繋いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地から一筋入った静かな住宅地に位置している。職員は、チームワークを大切に、何事も互いに意見を出し合い、利用者本位の質の高いサービスを提供している。そして、利用者の能力が発揮できるように、趣味の作品づくりを楽しんでもらい、その人らしい生き方を支えている。避けられない高齢化、重度化に向けては、協力医と訪問看護師が連携して、徹底した体調管理を行い、安心のできる生活を確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で 一人一人が穏やかな暮らしができるよう 職員同士で情報を交換しながら取り組んでいる。	職員は「寄り添う介護・気づきの介護・考える介護」の理念を、常に意識しながら共有し、実践をしている。利用者の状況を、日々把握し、住み慣れた地域の中で、明るく穏やかな暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には 散歩へと出かけている。途中に出会ったご近所の方との挨拶や 世間話をするなどして 楽しんでいる。	幼稚園児や小中学生、ボランティアの人たちと交流をしている。事業所の行事には、地域の人達を招待し、学校の運動会などには招かれて、観覧席を設けてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の二つの小学校との 交流や 二つの中学校の職場体験の受け入れを通し 認知症の人への理解を深めていただけるよう 取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での利用者・家族・地域の方の 活発な提案や意見を その場で現場へと落とすことが出来るよう 話し合い取り組んでいる。	会議は、隔月に開催し、家族会と併せて行うこともある。出席者からの提案や要望を受け、そこでの意見等は、職員会議で検討し、サービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほほえみ便りを 市・民生委員・第3者委員などに届けながら アドバイスを頂くことができるような体制を作っている。	市主催の、キッズサポーター養成講座の講師を委任されている。グループホーム連絡協議会には、毎回参加している。ホームの広報誌を、市の関係者に届けながら、実情を伝え、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて 勉強会を行い、職員一人一人が日常的に 何が身体拘束にあたるのかを 考えている。利用者が落ち着かれない時・職員が一人の時に一時的に廊下の施錠をしているが 日常的には開錠している。	職員会議で、身体拘束の弊害や言葉による拘束についても学習している。やむを得ない場合でも、一時的なものに留め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて 何が虐待にあたるのかを話し合い日常的に 些細なことでも 職員同士で意見を出し合いながら 虐待が見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議にて制度について学んでいるがホーム外の研修への参加もしている。現在利用している方はみえないが 必要となった時は 関係者とともに 活用できるよう支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は 利用者や家族の思いを一番に考えながら 不安を除くことができるよう 丁寧に説明している。また 分からないことなど どんなことでも聞いて頂けるよう 働きかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族へのアンケートを実施しているが あまり意見として出てこないのが実際です。どんな些細なことでも 情報交換しながら現場に落とすことができるように 家族との会話も大切にしている。	利用者の要望で、トイレの扉をカーテンに替えている。歩行が困難な人の「戸外に出たい」という希望にも、車いす使用で応えている。家族から、エプロンに、職員の名前を縫いつける提案に、速やかに対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を出しやすい様な状況は作っている。意見は 会議で話し合ったり 代表者に相談することで解決へとつながっている。	職員の意見や提案等は、全体会議で話し合っている。勤務に、ゆとりが持てるように、早番と夜勤者の引継ぎや作業分担の提案を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別に話し合う時間を設けている。ホーム外での研修に参加できる機会もあり参加後は会議にて報告し 職員全員で共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が安心して夜勤が出来るよう 個別に話し合いながら 問題点を浮き上がらせ 解決方法を職員全員で考える機会があった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、グループホーム協議会などへの会議や研修に参加し、ケア会議にて共有しサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時 訪問看護師にも同席して頂いていることで 生活面だけではなく 身体面に対しての不安も軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時 家族に安心して頂くことが出来るよう ほほえみ便りや写真を見て頂いている。また家族の思いを大切に 介護計画に生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族が納得できるようなサービスを「その時」の思いを大切に勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや提案に耳を傾け 利用者からの情報も大切にしている。特に 昔話は季節感があったり 時代の背景を感じることが出来るため 大切なことだと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は お二人の時間を大切にと考えている。日頃 利用者からの提案や悩みなど些細なことも 伝え アドバイスなどを頂きケアに生かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友達の訪問の時は 二人の時間を大切にして頂けるよう 温かな飲み物をお持ちしたり部屋の温度に気を付けたりしている。また 行事などへ参加して頂けるよう 声を掛けさせて頂いている。	知人や友人の訪問があり、関係継続のためにも、訪問時の雰囲気づくりに配慮し、支援をしている。職員の家族が、毎日、畑の野菜作りを手伝いに来て、利用者と馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話には 時と場合によって入って会話を繋いだり 外で聴いたりと 配慮している。それによって お互いが気にかけて下さり 声を掛けあう場面が多くみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、情報提供を行い、不安や混乱が生じないように、サービス提供者との連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとの会話の時間を大切にしている。その会話の中での利用者の思いを 毎日の申し送り時に 確認しあったり ケア会議で話し合ったりしながら 情報の共有に努め ケアに生かしている。	日常の会話や外出などの場面で、思いや意向を把握している。困難な場合は、生活歴や趣味などの情報を、家族から得ている。ドライブや外食の希望もあり、できるだけ、思いに沿った暮らしとなるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との会話の中で得た情報を 毎日の申し送り時に 確認し合い ケア会議でも一つの情報として共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り表などで 利用者の暮らしを各職員が把握すると共に ケア会議でも一つの情報として 共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを一番に考えながら 家族と利用者話し合う時間を持っている。面会時には 家族との会話時間も大切にしながら 現状に即したケアができるよう 努めている。	利用者の思いや家族の意向を確認し、職員や関係者の意見を、計画に反映させている。その人の能力を活かし、より良く暮らせるような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は 日勤者を中心として全職員で記入している。その中で 情報を各自が把握することも大切にしている。また 申し送り時とケア会議での情報の共有も大切にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な物品がある時は 一緒に出掛け 購入している。また 他科受診に付き添うことがある。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事に参加している。作品展・運動会・民謡・生け花展 など 地域の方から 毎年 声を掛けて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する医療機関に受診している。家族から 受診時の体の状態を尋ね 訪問看護師に伝えたり 家族・看護師・PTと連携をとりながらケアに生かしている。	かかりつけ医への受診は、家族が送迎し、急変時は、職員が対応をしている。協力医による、月に2回の往診があり、家族やかかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療施設であるため 些細なことも訪問看護師に伝え 相談している。体調によっては 病院への受診に同行して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があり 入院先の担当医・支援相談員との連絡を密にし 訪問看護師・主治医と連携しながら 早期に退院できるよう情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針において 利用者・家族の思いを確認している。重度化した場合は 母体の医療機関の医師を中心に 家族・訪問看護師・PTと相談しながら 今 出来ることについて話し合い よりよいケアへと繋いでいる。	重度化の際は、家族と協力医が話し合い、必要な支援体制を取っている。看取りの希望には、家族・主治医、関係者で話し合い、思いに沿えるように、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて緊急時の対応を勉強している。また ホーム外での研修にも 参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て 避難・通報・消火の訓練を行っている。また 避難時の心得など 署員の方から 説明を受けたり 避難の方法を 教えて頂いている。夜間においては特に 地域の方の協力が得られるよう お願いをしている。	消防署の指導の下、昼・夜間想定 of 災害訓練を行っている。特に、利用者の避難を最優先に、指導を受けている。消防署による防火設備等の定期点検、専門業者によるエレベーターの設備点検を行っている。	地域住民からの避難協力では、どのような役割を分担できるかなど、再検討に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対し「言われて嫌なことは言わない。やられて嫌なことはやらない」を基に利用者一人ひとりを理解しさりげない言葉かけやケアを心がけている。	プライバシーの保護について学習し、一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないように、徹底をしている。また、慣れ合いで不用意な言葉かけにならないように、心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを大切にし 全職員で共有しながら 自己決定がしやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いを一番に考えている。一人ひとりの体調や気分など 変化があれば その日の勤務者で情報を共有しながら 希望を優先に考え過ぎて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の馴染みの美容院へ出かけて頂いている。訪問理容を希望する方には 髪型の希望を確実に伝えることが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在 宅配サービスを利用しているが 旬の物があると購入し すぐ食卓に出している。料理の仕方や味付けの具合など 利用者の提案を大切に考えている。準備や片づけなど 日常的に一緒に行っている。	野菜の皮むきや味見、片付け等、職員と共に 行っている。食事中は、軽やかな音楽を流し、雰囲気づくりをしている。それぞれのペースで、ゆったりと食事を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理のため 摂取量の把握をしながら水分量の測定を行っている。食べる量が少ない方には医師と相談し 高カロリー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは できる所までは 一人で行って頂き その後 職員が仕上げをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながら 一人ひとりに声を掛けさせて頂いている。必要時のみ リハビリパンツを利用しているが ショーツを基本としている。	適切な声かけ誘導により、全員が、トイレでの排泄ができ、自立している。夜間は、数名のみ、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方には できるだけ細目に摂取して頂けるよう声を掛けている。入浴時にはお腹のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	早く入りたい方・ひと休みして入りたい方・熱い湯の好きな方・ぬるめの好きな方 など希望があるので 一人ひとりと相談しながら臨機応変に支援している。	隔日の入浴日を設けている。個々の習慣やこだわりを見極め、柔軟に対応している。重度者も複数介助で、安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣が違うので それぞれ自分のペースにて 休んでいる。夜間は遅くまでテレビを観て休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬についてファイルにまとめてあり いつでも確認できるようになっている。体調の変化時は 訪問看護師と連携をとりながら 対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制的ではなく 好きなことへ参加して頂いている。洗濯干しや洗濯たみ・食器拭きやテーブル拭き・ゴミ袋作りなど 進んで手伝って下さる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって 一人ひとり 散歩に出掛けている。家族会では 春と秋に花フェスタ記念公園へ出かけてる。	利用者の体調に配慮しながら、戸外に出ることを日課としている。希望により、近くの喫茶店へ出かけている。家族の協力を得て、季節の花見や紅葉狩り等の名所地へ出かけている。	家族と協力し、自立支援に繋がる個別の外出支援を、更に増やしていく計画の実現を期待したい。

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方には 所持して頂いている。また 買い物に出かける時は 職員に見守りのもと 財布を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解のもと 希望時には 電話を使用して頂いている。また 日常的に 家族に手紙を出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの扉の音が気になるので カーテンに変え設置した。また 玄関先の季節の花をテーブルに飾り 季節を感じて頂いている。	共有空間は広くて見通しがよく、利用者の安全な動きを把握できる。季節の花を、玄関や居間に飾り、清潔で明るく、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて過ごす方・テーブル席にて過ごす方など希望に合わせている。気の合った方同士が並んで テレビを観られることも多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には 自宅で使用していた物をできるだけ 持って来て頂くように話している。家族の写真や手作りの物など 家族と相談しながら 飾って頂いている。	居室には、馴染みの家具や調度品を、自由に持ち込んでいる。壁には、手づくりの作品や家族の写真を飾り、個性あふれる居心地のよい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自立した生活が送れるよう 利用者と相談しながら 工夫している。夜間使用のポータブルトイレの位置は 転倒防止を考えながら 利用者の使いやすい位置に設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム(2階)		
所在地	岐阜県可児下恵土3005		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の入り口に理念を掲示し、ケア会議、申し送り、その都度ケアについて職員同士話し合い、利用者様の思いをケアに活かせるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で、散歩や買い物などに外出した際は、地域の方に積極的に声をかけたり、挨拶したりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生の職場体験や大学生の福祉実習を受け入れたり、幼稚園児の訪問を通じ交流する中で、認知症の人の理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者様、ご家族様にも参加して頂き、意見交流を行い検討事項等は次への実践へと繋げ活かしていけるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほほえみだよりや行事広報を市、社会福祉協議会、民生委員にお届けしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて勉強。話し合っ理解に努めている。日中、玄関・入口は施錠せず出入りは自由に行えますが、鈴をつけ確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて勉強。話し合っ理解に努めている。日頃から職員同士のケア方法について互いに目を配り気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について定期的な研修や会議にて、話し合う機会を設け意見交換をしている。また、ほほえみ外研修へも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の考え方や取り組みをきちんと説明し、利用者様、ご家族様への気持ちを受け止め、理解頂いた上で同意を得ている。改定時は、通知の上、口頭にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様ともコミュニケーションを取りながら、意見を聞き、情報共有に努め、必要があれば会議で話し合っている。意見箱を設置して意見、情報をきける場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は個々に話し合う機会を設け、意見を取り入れたり、日頃から職員一人一人と会話をし意見等あればそれを汲み取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はここに話し合う機会を設け、研修の参加や個々のキャリアアップの為に働きかけたり、個々の業務上での悩みなどを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内外の研修参加の機会が設けられている。お互いのスキルアップの為、ケア会議で報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連合会、県の協議会などへの会議や研修に参加し、ケア会議にて共有しサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、関係者から事前に情報提供して頂き、事前面接などでご本人様とも話し合いを大切にしながら良い関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様安心して頂けるよう事前に施設見学をして頂き、ご家庭での生活環境を大切にしつつ、今後の生活に対する不安や要望等を話して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の想い、希望等お聞きし、不安なく過ごして頂けるようなプランを作成し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者様に出来る所は手伝って頂き、そこで利用者様から色々教えてもらいよい関係作りに励んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは日頃の様子をお伝えしたり、利用者様とご家族様の時間を大切にして頂けるよう努めている。通院、美容院への付き添い等お願いしたり、家族会や行事への参加する機会を設けたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に行き付けの美容院に出かけたり、個別外出や買い物ではなじみの場所に出かけ楽しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話交流の場が職員が間に入ることによりでき、良い関係を気づけるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、情報提供を行い、不安や混乱が生じないよう、サービス提供者との連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、一人一人の想い、望むことを汲み取り把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の利用者様やご家族様との会話の中で情報収集に努め、ケア会議や申し送りなどで話し合い職員同士情報の共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りなど1日の過ごし方、心身の状態を職員一人一人が把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成に伴い、利用者様、ご家族様に想いをお聞きし、ケア会議で話し合い、意見交換をし変化があれば見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、介護記録、連絡ノートを活用し、日頃の身体状況、気づき、変化をとらえ、ケア会議等で話し合いをし職員同士情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の状況に応じて、病院受診への送迎や物品購入などの支援をしている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化センター、公民館祭りなど地域の行事に出かけたり、ボランティアの活用を通じ、安全に配慮し安心して地域の方々との触れあう機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様が希望される病院へ受診して頂いている。情報提供、職員の同行など関係者との連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護を受けており、その都度異変や状態を連絡し指示を受けている。院長先生にもすぐに連絡が取れる連携体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、ご家族様と話し合いを持ち、早期退院に向けて連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の想いをきき事業所で出来ることを説明、支援している。院長先生の指示もうけ、相談し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修で勉強会を行い、職員一人一人が実践できるようホーム外へ研修に出かけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力を得て、避難、防災訓練を実施。近隣の方にも理解を得て、協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の想いを汲み取り、その方に合った声掛け対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様に寄り添い、傾聴し言葉や表情から気持ちに気づくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調に合わせ、気持ちを汲み取り、その方のペースに合わせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力のもと、慣れている美容院に出かけたり、服装もご自身で選んで着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理を一緒に行い、利用者様の好みを把握し、盛り付けや器などでも食事を楽しんで頂き、片付けもその人にあった出来ることをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握し、体調、体重管理を行いつつ、栄養摂取、水分摂取の支援をしている。食材はその方に応じた食べやすさに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、見守りながらご自身で磨いて頂き、口腔内の清潔を保持している。義歯洗浄も行っている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを把握し、失敗がないように声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便リズムを把握し、バナナジュースや牛乳を飲用して頂いたり、水分補給や運動を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の望みを優先し、温度、入浴順などを決めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠につなげる為、日中の活動を支援し安眠へとつないでいる。不眠の日は日中居室にて少しでも休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬内容、既往歴等ファイルにまとめ保管し常にみれるようになっている。薬の変更等があれば申し送りし職員間で連携をとっている。変化があれば院長先生、訪看と連絡をとり相談し体調管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みに合わせ、出来ることできないことの把握をし、苦手なことは職員が間に入り楽しいことに変える努力をしている。毎日レクリエーションを行い、喜びや楽しみのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調を考慮し、散歩などで外の空気や季節を感じ、家族会での遠出や個別外出などを計画し出かけている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出では個々に財布を持って出かけ、ご自分で支払って頂くように見守りながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は望まれるときにかけて頂けるよう支援している。年賀状や暑中見舞いなどご自身で書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃、施設内の清潔に努め、個々の方の不快や快に配慮している。 皆様が集まる居間などは季節の作品を利用者様と作り、展示して季節を感じて楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでテレビを観ながら過ごす方、他利用者様と交流をもったり、居室で休んだりと思い思いの場でくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染み物や家具、思い出の品などを飾ったり、ご家族と相談しながら心地よい空間を作って頂いている。安全にも十分気を付けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の理解力を把握し、不安や混乱がおきかないような生活空間を作るよう日々努めている。生活動線を考え、転倒のリスクがないかにも十分考え工夫している。		